

私は、今年の夏に視覚障がい者の施設へ生まれてはじめてのボランティアをしに行きました。

町で時々、盲導犬を連れて人を見かけたり、白杖を持った視覚障がい者とすれ違ったりすることはあるけれど、接し方が分からず、色んなことを知りたいと思ったのがボランティアへの応募のきっかけでした。

ボランティアで体験した主なことは、利用者の方と一緒にサウンドテーブルテニスをすることです。サウンドテーブルテニスとは、音がなる金属球の入ったボールをネットの下に転がして音をたよりにボールを打ち合う、卓球のようなスポーツです。

私もサウンドテーブルテニスをやってみると、思ったより難しく、慣れるのに時間がかかりました。また、視覚障がい者の方が力強く球を返してきたのでびっくりしました。私は視力があるのに負けることが多くて、音だけをたよりに球を打ち返しているのはすごいなあと思いました。次に目かくしをつけてやってみました。すると、いきなり目の前が真っ暗になって少し不安な気持ちになり、

「こんなの私にはできっこない。」

そんな後ろ向きな気持ちになってしまいました。実際にやってみるとやっぱり難しく、全く球を打ち返せず、そんな私を周りはどうな目で見ているのかと考えると、逃げ出したくなってしまうしました。その時ふと思いました。

「ここにいる人達は、日々、私が目かくしをしているような状況の中生きているんだ。」

そのことに気づいた私は、こんなに簡単にくじけたらダメだ。もっと強い心を持つとうと思いました。また、私みたいに不安で心細い気持ちの人がいたら私が助けてあげたいと感じました。

しばらくサウンドテーブルテニスをやっている利用者の方々を見ると、どの人も楽しそうな笑顔をして、生き生きとしているように見えました。その姿を見て、障がい者が楽しめる施設を作る川口市を誇りに思うと共に、優しさあふれるこの町に住んでいることがとても嬉しくなりました。

今回ボランティア活動をして私は、視覚障がい者の手助けをしたいと強く思うようになりました。道端で困っている人がいたら私が助けてあげたい。道に迷っている人がいたら私が案内してあげたい。人まかせにせず、積極的に自分から動こう。ボランティアをすることで、私はこんなに大切なことに気づかされました。とても良い経験になったと思います。

私達は何不自由ない健康な体を持っています。だから私は障がい者の方々にできる限りのことは、してあげたいと思います。そしてそれが私達の生まれつきの義務だと思っています。